

# 教育課程部会

## I. 研究の概要

### 1. 研究課題

新しい時代に必要となる資質・能力を育成する「社会に開かれた教育課程」はどうあるべきか

### 2. 研究内容

#### 【研究内容 1】

学校教育の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現

- ア. 構造的・弾力的な教育課程の改善
- イ. 調査・データに基づいたP D C Aサイクルによる改善
- ウ. 外部資源の活用、外部機関との連携
- エ. 自ら課題を発見し解決する資質や能力を育成する「総合的な学習の時間」の在り方
- オ. 自己の生き方

#### 【研究内容 2】

教職員の個別最適・協働的な学び

- ア. 校内研修
- イ. 主体的・自律的な体制の確立
- ウ. 日常的な OJT (On-the-Job Training の略、職場内訓練)
- エ. 成果の可視化、共有

### 3. 研究方法

#### (1) 交流計画

各校のレポートを中心に、小中学校混合の分科会で交流する。

#### (2) 分科会構成

会場 : 北広島市立広葉中学校

## Ⅱ. 実践研究の経過と成果

### 1. 実践研究の経過

#### (1) 部会役員研修会による研究経過

- 5月 8日 第1回部会役員研修会  
研究課題・内容・方法の確認、部会当日について、日程確認
- 5月23日 第2回部会役員研修会  
研究協議会の協議方法（分科会構成・役割分担）の検討、当日までの仕事内容の確認
- 7月 1日 部会だより第1号発行
- 7月31日 第3回部会役員研修会  
研究協議会当日の協議内容・方法の確認  
会場校の確認
- 8月 4日 部会だより第2号発行
- 9月 2日 第4回部会役員研修会  
課題部会研究協議会  
部会だより第3号発行
- 10月14日 第5回部会役員研修会  
研究の成果と課題の洗い出し、『石狩の教育』原稿読み合わせ
- 1月 日 第6回部会役員研修会  
今年度の研究のまとめ、次年度の研究について

#### (2) 部会役員研修会での研究成果

- ① 課題部会研究協議会で理論研修会を開催し、各校の実践レポート交流を行うことができた。
- ② レポートの提出はC4thを活用し、データで素早く集めることができ、分科会においては、グループ別にレポートをまとめておき、レポート発表のときにすぐに画面表示することができた。
- ③ 3回の部会報とHPで、部会員への研究内容や日程などの周知を行うことができた。

### 2. 課題部会内での交流

#### (1) 課題部会内での交流内容

昨年度は南北2会場での実施であったが、今年度は1つの会場に集まり、理論研修、レポート交流を行うことができた。事前に集まったレポート数は54本にも及び、部会員は8つの分科会に分かれ、各校の実践の交流が行われた。

各学校から、多くの実践がレポートとして集まった。特に研究内容1の「学校教育の好循環を生み出す『カリキュラム・マネジメントの実現』」についてのレポートの他に、今年度から設定された研究内容2の「教職員の個別最適・協働的な学び」についてのレポートも集まった。研究内容1、研究内容2の取組内容の一部を紹介する。

## (2) 課題部会実践レポート内容

### 研究内容 1

学校教育の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現

### 1) 働き方改革（日課の見直し）

恵庭市立恵庭小学校では、今年度から教職員の働き方改革の一環として、水曜日の日課を午前5時間授業で行っている。教員だけではなく、子どもからも「水曜日は早く帰れてよい！」という声が聞こえてくる半面、特別支援学級の児童は、毎日の生活の流れが変わるため、対応できない子も見られる。今年度の年度末反省でこの日課についての意見を集約し、次年度に向けて話し合いを行っていく予定である。

#### 1. 日課について

恵庭小学校では、今年度から教員の働き方改革の一環として、日課の変更を行いました。

##### ①午前5時間授業の取り組み

放課後の時間の確保を目指し、水曜日の日課を午前5時間授業で行っています。

水	
開 錠	水曜日 日 課
1	8:15
2	9:00 9:05
3	9:50 9:55
4	10:40 10:45
5	11:30 11:35
給 食	12:20
学級活動	13:00 13:10
一斉下校	13:20

○午前5時間授業は水曜日のみ行う。

○朝の会は行わず、連絡程度で1時間目に入る。

○朝読書・大休み・清掃もなし

○13:30には全員下校する。

○1年生については、5時間授業が始まる5月までは他の曜日と同じように4時間で行っている。

〈前期前半を行ってみて〉

○最初は子どもたちも大休みがないことや、どんどん授業が続くことに慣れない様子も見られたが、毎週行っていくことによって慣れていっている。子どもたちからは「水曜日は早く帰れるからよい！」という声も聞こえてきている。

○先生方も最初は慣れない面もあったが、放課後の時間がとれてよいという声も聞こえる。

○水曜日はできるだけ打ち合わせ等はいれないようにしているが、職員会議や研修は入れている。職員会議等は13:40よりスタートできるため、会議後もまだ時間がとれている。個人懇談などが入っている日も早くスタートできる。

●特別支援級の児童は、毎日の生活の流れが変わるため、対応できないお子さんも見られる。

☆今後も実施していき、今年度の年度末反省でこの日課についての意見集約し、次年度に向けて話し合う予定。

##### ②1・2年生冬時間の取り組み

1・2年生の時数が多いことから、冬時間として以下のように計画しています。

☆1年生⇒11月～1月まで、毎週月曜日を5時間授業→4時間授業としている。

☆2年生⇒11月～1月まで、毎週火曜日を6時間授業→5時間授業としている。

※低学年の先生の空いた時間については、緊急時の補欠や委員会活動のメインをもってもらうなどを予定しています。


(恵庭市立恵庭小学校)

## 研究内容 2


教職員の個別  
最適・協働的な  
学び

## 2) 生徒も教師もワクワクする、魅力ある授業の構築

- ◇教科のもつ魅力、見方・考え方を伝える授業を展開し、基礎学力の定着を目指す。
- ◇ファシリテーションの手法を使った対話的な活動や ICT の効果的な活用により、個別最適な学びと協働的な学びが往還する授業を展開する。



# 対話活動のきまり



**【自分の考えを述べるときの基本の形】**  
自分の考え+根拠（理由）+説得力を増すための話（具体例・実体験等）  
例：「私は〇〇だと考えます。なぜなら△△だからです。例えば××ということがありました。以上のことから私は〇〇だと考えます。」

<b>【話すとき】</b> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 「基本の形」にそって話す</li><li><input type="checkbox"/> 聞き手に聞こえる声で話す</li><li><input type="checkbox"/>丁寧な言葉で話す</li><li><input type="checkbox"/>他の人の考えを受けて話す</li></ul>	<b>【聞くとき】</b> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/>話し手の方を向いて聞く</li><li><input type="checkbox"/>最後まで聞く</li><li><input type="checkbox"/>あいづちを打つなど反応する</li><li><input type="checkbox"/>否定しない</li><li><input type="checkbox"/>自分の考えと比較しながら聞く</li></ul>
---	---

**【話し合いの流れ】**

- ①挨拶
- ②役割分担
- ③目的を確認（何の話し合いか）
- ④時間配分の確認
- ⑤意見を出し合う
- ⑥出た意見を基に方向性を定める
- ⑦結論を出す
- ⑧まとめと振り返り
- ⑨挨拶

**【司会者（ファシリテーター）】**

- 話す順番や時間配分を決める
- 参加者全員が発言できるように心がける（「質問の技カード」を参考に、話を聞き出す）
- 話がそれたら、元の話題に戻る
- 質問や反論がないか確認する

**【記録者・発表者】**

**記録**

- テーマ（議題）を書く
- 記録用紙にそってメモする
- 話したことをそのままメモする
- 発表しやすいように自分なりにまとめる

**発表**

- 聞き取りやすい声の大きさとゆっくりはっきり話す
- グループの意見とその意見になった理由、話し合いの過程が伝わるように話す



（江別市立江別第三中学校）

## 研究内容 2

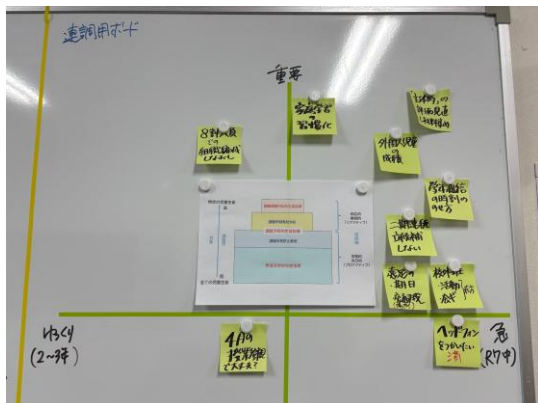
教職員の個別  
最適・協働的な  
学び

### 3) 学び合う職員室づくり

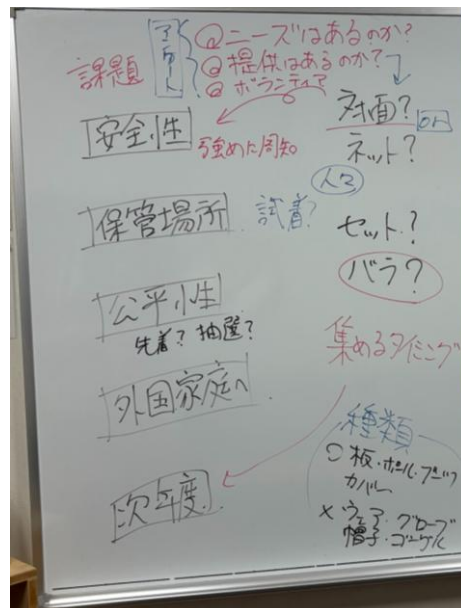
新学習指導要領について議論が始まっている。それが実施される前に、現行の学習指導要領で大量に降ってきたビッグワード、教育用語。これらを整理するためには、「こうやってみたらどう?」「こんなことできないかな?」と安心して意見が言える風土が大事である。

#### 【ホワイトボードの活用】

日常的にすぐに教育課程上の課題が共有できるように、重要⇄そうでもない、急ぎ⇄ゆっくりという軸をつくって貼り付け、主幹教諭等がいつでもその周りで話ができるようにしている。



↓話し合いの方向性がぶれないように  
話題整理をしていく



#### 【勝手に発信していいんだという雰囲気】

「聞いて!聞いて!」とつい話したくなる感じ、気軽に発信できる雰囲気が大事である。発表の場をつくり、膨大な資料を用意して…といった発信の場も必要だと思うが、日常的に自分の学びや気づきを発信し、それをネタに、また対話が広がっていくのもいいのではないかな。

▼	タイトル	添付書 種	カテ
	【ふむふむ】(引取型訓練)駐車場実況中継		ふむふむ～山本からの情報提供、 信します。
	【ふむふむ】みんなの集い・平和集会		ふむふむ～山本からの情報提供、 信します。
	【ふむふむ】令和7年度発達障害教育基礎セミナー		ふむふむ～山本からの情報提供、 信します。
	【ふむふむ】夏休みまえに		ふむふむ～山本からの情報提供、 信します。
	【ふむふむ】4年生出前授業～江別太の歴史		ふむふむ～山本からの情報提供、 信します。
	【ふむふむ】7/4 札幌教育大付属小公開授業動画		ふむふむ～山本からの情報提供、 信します。
	【ふむふむ】(動画 26分くらいです)学校看護師の役割	01	ふむふむ～山本からの情報提供、 信します。

↑C4thに【ふむふむ】という校長のつぶやきなどを載せている  
(江別市立江別太小学校)

### Ⅲ. 理論研修会

#### 1. 理論研修会の内容

今年度は、「教師は、どのようにして力量を形成するのか」を演題に、森茂之氏（北海道立教育研究所人材育成部主査）を講師として理論研修会を行った。

- ・アイスブレイク  
「あなたは、どのようにして教師としての力量を深めてきたか。」をグループで交流
- ・教師の力量形成につながる学びとは、どのような学びなのか
- ・資料の読解
- ・グループでの対話

等、話し合いを中心に行われた。



#### 2. 理論研修会の成果

- ・探求心をもちつつ、自律的に学ぶことで、力量を深めていく
- ・教職員の主体性の尊重
- ・子どもを主語にした学校教育
- ・「現場の経験を」を重視した学び
- ・正解のあることではない

等、教師の力量形成においては、一人一人に生まれる「気づき」が大切であるということがわかった。



### Ⅳ. 部会研究の成果と課題

#### 1. 成果

北広島市立広葉中学校に集まり、新しい時代に必要とされる資質・能力を育成する「社会に開かれた教育課程」に迫るために研修を推進することができた。「教師は、どのようにして力量を形成するのか」をテーマに理論研修会を行うことができた。レポート交流では、より活発な意見交換をすることができた。レポートについても事前にデータで集約できたので、分科会では、画面を通してレポートを見ることができたり、事前に自分でプリントアウトしたりと、各自が選んだ形でレポート交流の準備をすることができた。

それぞれの学校の創意工夫により、小中一貫教育の取組、学力向上の取組、総合的な学習の時間の特色ある取組等の実践を知ることができ、各校の悩みどころを解明するレポート発表がされ、昨年以上に、貴重な情報交換の場を提供することができた。

#### 2. 課題

しっかりとしたレポートが多く集まり、各校の発表は大変素晴らしかったが、レポート実践交流のみとなってしまい、質疑応答が十分に行えない分科会が少なくなかった。課題部会は半日日程のため、午後の時間しか利用できず、今回のように理論研修会と2本立てになると、レポート交流の時間は1時間程度しか確保できない。活発なレポート交流がされているだけに、次年度はレポート交流の時間をなるべく確保できるよう計画を立てていきたい。

(文責 占部 智一)